



—第5号—

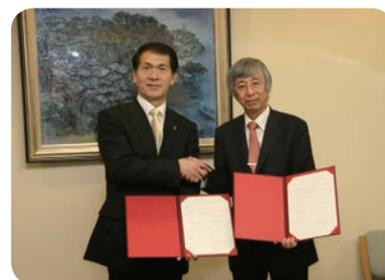
地域・だいがく連携通信

—神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町 1-1
TEL : 078-803-5029
FAX : 078-803-5049
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

加西市と連携協力に関する協定を締結しました

2009年5月19日、加西市と神戸大学は連携協力に関する協定を締結しました。加西市は、本学の農学研究科附属食資源教育研究センターの所在地です。今後、両者間で、同センターを中心とした地域課題に関する意見交換をおこなっていく予定です。また、貴重な戦争遺跡である鵜野飛行場跡地と川西航空鵜野工場関連施設が、同センター内とその周辺に点在しています。これらの歴史文化遺産の学術調査も継続しておこなう予定です。神戸大学として包括的な連携協定を締結した自治体は、これで4つ目となりました。



協定書に署名し、握手を交わす福田秀樹・神戸大学長(右)と中川暢三・加西市長(5月19日、神戸大学にて)

— 部局においても自治体等との協定締結が相次ぎました —

2009年度に入って、神戸大学では、「連携に関する協定」の締結が相次いでいます。

4月1日、**兵庫県と経済学研究科**との間で協力協定を締結しました。経済学研究科で最初の地域連携協定です。県職員が同研究科の「地域経済統計論」等の講義を担当する他、共同で地域政策統計研究会を設置し、地域政策統計の分析方法の研究及び経済統計データについての情報交換をおこなっています。

6月26日には、**南あわじ市と国際文化学研究科**との間で連携・交流に関する協定を結びました。南あわじ市は淡路人形浄瑠璃といった伝統文化の継承をはじめ、地域社会に根差した地方文化振興策に力を入れています。国際文化学研究科は、淡路人形浄瑠璃の研究や少子高齢化や外国人居住者の増加に伴う地域社会の国際化といった、現在、地域社会が抱える諸問題について共同で研究調査する事業をおこなっていく予定です。

最近では7月17日、**兵庫県立美術館と人間発達環境学研究科・発達科学部**との間で、芸術の振興と地域社会に貢献できる人材の育成について、相互協力する協定を締結しました。

このように、神戸大学は、兵庫県や県内自治体等と「連携に関する協定」を結び、地域連携事業を進めています。

神戸大学と連携協力協定を締結している自治体等

(2009年7月17日現在)



国際文化学研究科の地域連携への取り組み



異文化研究交流センターの組織構成

国際文化学研究科の地域連携への取り組みは、異文化研究交流センター（IReC）に設置されている二つの地域連携部を核として行っています。また、異文化研究交流センターを中心とした地域連携の活動の目的は、大きく次の3点に集約されます。

第一に、地域社会を教育の場として考え、地域住民の方々の協力をいただきながら、今日的な問題に取り組むこと。第二に、地域の国際化や多文化共生といった問題に寄与していくこと。第三に、地域連携活動の学術的成果を、広く発信していくことにより、地域文化の活性化、創造に向けた共同作業を地域の方々で行うことです。センターの組織構成も概ねそれに応ずる形になっています。センターに設置された4部門のうちのアートマネジメント地域連携部、多文化共生地域連携部、そして研究部が地域連携活動の中心を担っています。

アートマネジメント地域連携部は、地域に根差したアート活動を支援し、プロモーションする過程の中で、学部学生の教育を進めています。現在は、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（以下、現代GP）」に採択された「アートマネジメント教育による都市文化再生」プロジェクト事業の一環として、主に学部学生教育と連動しながら、コンサートの実施やワークショップ、シンポジウムを行っています。

多文化共生地域連携部の活動に関連して、制度的な基盤を整えるため、2008年、国際文化学研究科と財団法人兵庫県国際交流協会の間で協力協定を結びました。この協定に基づき、昨年度は、(1) OxBridge English Summer School、(2) 「21世紀文明研究セミナー」、「アジア若者塾」など地域の国際化関連の事業への講師およびボランティア派遣、(3) 兵庫県内の在日外国人支援団体への学生ボランティア派遣、(4) 兵庫県国際交流協会における学生



のインターンシップ、(5) 兵庫県国際交流協会主催の国際シンポジウム、行事への学生のボランティア参加など、地域の国際化、在日外国人支援活動への協力を中心とした多様な地域連携活動を展開しています。

2008年度後半からは、文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」及び現代GPが連動し、2009年6月に南あわじ市と地域連携協定を結びました。これを契機に淡路人形浄瑠璃の総合調査を進めるとともに、「アジアこども映画祭」への協力、地域の生涯教育への参加などの広範な連携協力を行う予定です。南あわじ市との地域連携活動は、国際文化学研究科のもう一つの研究科附属センターであるメディア文化研究センターの研究プロジェクトと連動し、IReCを基盤に研究科全体で取り組みます。

このように国際文化学研究科では、異文化研究交流センターを中心に、学部から大学院、さらに研究レベルまでを統括する形で地域連携活動を行っています。

（岡田浩樹・神戸大学国際文化学研究科教授談）

神戸市灘区との連携事業

神戸市灘区とは、2004年12月に「地域福祉向上、産業振興、教育・文化・スポーツの振興及び発展、人材育成、まちづくりのため」に連携協定を結びました。協定締結を契機に、両者は意見を交わしながら、さまざまな連携活動に取り組んでいます。

- ・灘チャレンジ事業：灘区は、神戸大学教職員及び学生による灘区のみちづくりの活性化に資する地域活動を公募し、採択事業を支援しています。
- ・キャンパス訪問：六甲キャンパスの地元である灘区の方々に神戸大学を見ていただいています。
- ・灘・地域アカデミー：灘区にある大学が持ち回りで、区民の方々に地域のニーズにあったテーマでの、双方向からの意見交換がおこなえる公開講座を開催しています。
- ・子育て支援センター「あーち」：旧灘区役所跡の提供を受けて、子育て支援の「場」を設けています。



2009年3月28日には、灘区の建築家やまちづくりコンサルタント等が参加する灘コミュニティアーキテクトの方々が、神戸大学の六甲台講堂、社会科学系図書館、兼松記念館など、登録有形文化財である「昭和の名建築」の見学に訪れました。(右写真2点)



各センターの活動報告

農学研究科地域連携センター

7月11日、神戸大学農学部にて、第3回地域連携フォーラムが、篠山市と農学研究科地域連携センターの共催でおこなわれました。前回までは篠山市で開かれていたのですが、今回は神戸大学を会場として開催されました。

フォーラムでは、篠山市と神戸大学双方の立場から、地域連携の取組みについての報告があり、その後に報告者を含め、大学関係者、行政担当者、地元のまちづくり協議会メンバーなどによるパネルディスカッションに移りました。

パネルディスカッションのテーマは、「連携の成果・課題・展望」。協定締結後3年間の篠山での成果を踏まえ、課題や展望についてそれぞれの立場から意見が交わされました。

住民の方から「教員からの悪魔のささやき」や「学生の突拍子もないアイデア」を大学に期待したい、と笑いを誘うエピソードを交えた意見が出されると、大学側からは、「大学も地域活性化の担い手であるが、大学にもできることとできないことがある」「要望の中には、大学じゃなくてもできることがある」という意見が出されました。これを受けて住民側からは、「大学が来れば、課題がすべて解決すると思ってしまうがち。地域づくりの主体はあくまでも地域であるとの自覚が我々にも必要だ。一方、大学からも将来的にどういう成果につながるか説明が欲しい」との意見が出されました。さらに大学側から、「プロとして手伝える何かを持つのが大学の立場」という意見が出ると、市民からは「利用するプロを目指す」との元氣な意見が返されました。この後も活発な意見交換が行われ、最後に「地域連携は農村と大学を元気にすることができる」という意見に集約され、閉会となりました。

フォーラム終了後、瀧川記念学術交流会館でおこなわれた懇親会では、真南条上営農組合と神戸大学農学研究科のコラボで生まれた“丹波の赤じゃが”がお披露目されました。いろいろな“赤じゃが”を使った料理に舌鼓を打ちながら、なごやかな懇談がおこなわれました。

第3回 神戸大学大学院農学研究科・篠山市
地域連携フォーラム
7月11日(土)
 時間：14時～17時 / 場所：農学部B101

プログラム
 14:10-14:20 本学の地域連携について
 14:20-14:30 篠山市と神戸大学の取組
 14:30-15:15 農業農村フィールド実習と丹波の赤じゃがプロジェクト
 15:25-16:45 連携活動の成果

懇親会 17時～
 真南条農組合・神戸大学農学部
 コラボで生まれた「丹波の赤じゃが」披露パーティー
 会場：一ノ宮1号館5F

主催：神戸大学大学院農学研究科地域連携センター・篠山市
 協力：神戸大学地域連携推進室

平成21年度公募事業が採択されました

地域連携推進室では、神戸大学における地域連携事業の一層の推進・発展を目的とし、自治体等と連携して地域活性化を図る事業について、各部局における教職員の活動に対して「地域連携事業」を、学生の自主的な活動に対して「学生地域アクションプラン」を公募しました。審査の結果、本年度は「地域連携事業」5件及び「学生地域アクションプラン」2件が採択されました。

平成21年度 地域連携事業

部局名	申請事業名
人間発達環境学研究科 ヒューマン・コミュニティ創成研究センター	RCE（国連大学ESD推進地域拠点）の活性化に資するESDコア実践の推進
経済経営研究所	地域自治の支えとなる小地域統計分析の試み
自然科学系先端融合研究環 都市安全研究センター	神戸大学RCUSS発“みんなで考えよう 安全・安心で快適なまちづくり”
附属図書館	震災関係資料合同展示会及び講演会
自然科学系先端融合研究環 都市安全研究センター	社会的起業を通じた地域と大学の協働

平成21年度 学生地域アクションプラン

団体名	申請事業名
SESCO	社会起業支援サミット in 兵庫
中越・KOBЕ 足湯隊	「足湯ボランティア」によってつながる自然災害被災地

*** 学生地域アクションプラン 速報 ***

2009年7月12日（日）午後、「社会起業支援サミット2009 in 兵庫」が関西学院大学で開催されました。企画運営をおこなったのは、国際文化学部2年川村敦さんを中心とする神戸大学生グループ「SESCO」。環境、子育て、情報技術、防災、教育などに携わる県内企業やNPO法人計6団体が参加し、市民や学生ら約100人と活発な意見交換が行われました。なお、当日の様子は、全国に向けてWEBカメラを使って、インターネット生放送されました。（<http://sesco.nobody.jp/>）



編集後記

地域・だいがく連携通信第5号をお届けします。7月22日、日本国内では46年ぶりになる皆既日食が観測されました。あいにくの空模様でしたが、薄暗くなった様子は体感できました。次回の皆既日食は26年後だそうです。六甲台キャンパスでは、今年もセミが元気よく鳴いています。暑い夏、お体ご自愛ください。